

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいろスペース			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 10日		～	2025年 3月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数)	1人
○従業者評価実施期間	2025年 3月 10日		～	2025年 3月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	3人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが通いたいと思える事業所づくり	・子どもの個性や興味関心を職員同士で情報共有し、遊びや学習活動を工夫することで、楽しく達成感が得られるプログラムを提供している。 ・安心して過ごせるように肯定的かつ共感的な声かけを行い、環境調整を定期的に見直すなど、子ども主体の運営を心がけている。さらに、成功体験を積み重ねられるよう、一人ひとりに合わせた目標設定にも注力している。	・引き続き子どもの視点を大切に、学習や遊びなど多様な活動をさらに拡充する。例えば、地域イベントへの参加やスポーツ体験の導入など、子ども同士の交流と自主性を育む機会を増やす予定。また、保護者の意見も積極的に取り入れ、職員間で実践事例を共有しながら常に質の向上を図る。
2	保護者との意思疎通・情報伝達	・webシステムを活用し、その日の様子や活動内容を毎回報告している。活動写真も共有することで、子どもの様子を具体的に伝え、保護者が安心できるような情報の透明性を高めている。 ・定期面談では保護者がリラックスできる環境を整え、通所に関する話以外にも地域のことや保護者の趣味の話をするなど、職員と保護者の関係構築にも力を入れている。	・現在の活動報告や定期面談といった仕組みを継続しつつ、保護者が気軽に意見や要望を伝えられる小規模アンケートや個別相談を適宜実施することで、負担を増やさずに情報共有と意思疎通を一層円滑化することを目指して。職員間で報告内容を整理し、速やかに保護者へフィードバックを行う体制も強化し、より丁寧なコミュニケーションを図っていく予定である。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会の創出	・事業所側が送迎をほとんど行っているため、送迎時に保護者同士が顔を合わせる機会がない。観光業に携わっている保護者も多いため、祝日プログラムを開催しても保護者の参加が難しいという地域性も1つの要因である。	・保護者同士の交流機会が限定的な背景には、開催日程の周知不足や告知の遅れが影響していると考えられる。今後は、年間スケジュールを事前に公開し、早い段階で告知を行うことで、保護者が余裕をもって参加計画を立てられる環境を整備し、交流促進につなげる工夫を進める。
2	保護者への各種マニュアルの周知	・利用開始時の説明やパンフレット配布は行っているものの、有事の対応については口頭説明のみで終わる場合もあり、保護者が必要な情報をすぐに参照できない状況が生じている。	・マニュアルの内容を簡潔にまとめたリーフレットの作成やWebでデジタル版を公開するなどの対応策を検討中。定期的な更新と、LINEなどでの再案内を行うことで、保護者が必要な情報を迷わず参照できる体制を構築したい。
3	家族支援プログラムの実施	・当事業所は開所から約3年が経過したが、その間はサービス提供体制の確立や地域との連携体制の強化に注力してきたため、家族支援プログラムにまで十分なリソースを割くことができなかった。その結果、保護者や兄弟姉妹など家族全体への支援や学習機会の提供が後手に回り、十分に充実させられていない状況となっている。	・当法人では令和7年度より湯沢町から親子関係形成支援事業の委託を受け、CCAP版ベアレントینگプログラムを実施予定である。その事業への参加を促すとともに、当事業所でも家族支援プログラムを開催できるよう検討を進め、保護者や兄弟姉妹を含む家族全体へのサポート体制を拡充していきたい。